

# No8 梨園におけるロボットを活用した農業DX推進

(代表事業者) GINZAFARM (連携事業者) ゼンリンデータコム、塚田農園

## ■ 事業概要

梨園での農作業の負担減と経営効率の改善をAIを活用した自動走行ロボットで課題解決に取り組みます。テーマは3つ、防除作業の自動化、カラス追い払いロボット、運搬ロボットの複数同時運用。先端技術を用いて茨城県発祥の梨栽培DXソリューションの実現を目指します。

## ■ 課題解決方法のイメージ図

防除



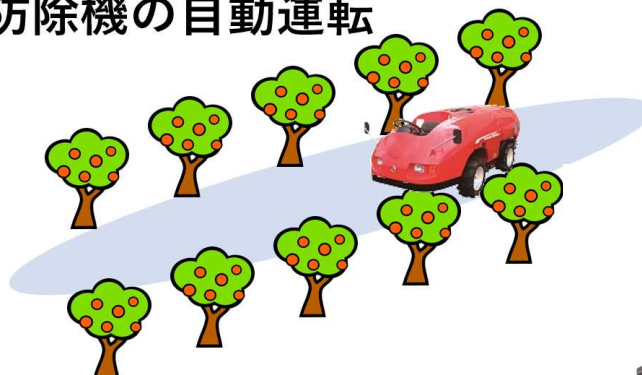
鳥獣害



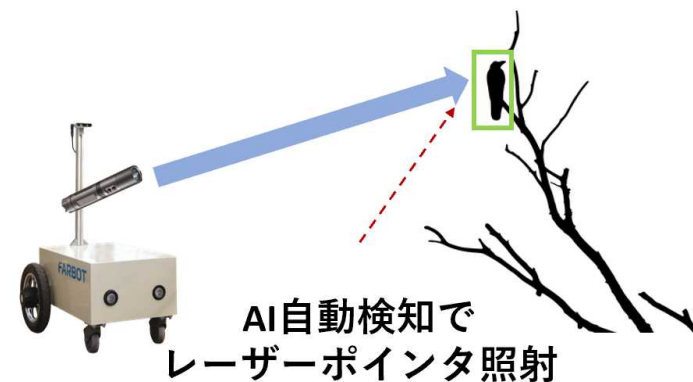
運搬



防除機の自動運転



DX化アプローチ



# No8 梨園におけるロボットを活用した農業DX推進

(代表事業者) GINZAFARM (連携事業者) ゼンリンデータコム、塚田農園

## ■実施体制

<代表機関>  
GINZAFARM(株)

- プロジェクトの社内各メンバーにて実証試験の全体統括及び運営を担い、ロボットの技術開発と自社農場を含めた実証地での実証作業を行う。

<参画企業>

(株)ゼンリンデータコム

- 地図情報における技術開発
- 地図データベースとマップAPIの提供

<参画企業>

塚田農園 (県内有数の梨農家)

- 多くの圃場を所有し、ロボットの運用とデータ収集など実証現場の協力

## ■スケジュール・実証成果目標

項目	令和3年										令和4年		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
準備	ロボット製造			■	■	■							
	センサー類			■	■								
	自動運転			■	■	■							
	画像認識						■	■					
実証	①防除作業の自動化					■	■	■	■				
	②カラス追い払い					■	■	■	■	■			
	③自動運搬					■	■	■	■	■			
	地図利用				■	■	■	■	■	■			
育成	作業データ収集							■	■				
	データ解析									■	■		
まとめ 成果報告											■	■	

今実証では先端技術を活用し、未来型農業の基礎を築くことを目指しております。

## ■アピールポイント

本実証事業での開発する技術（自動運転アタッチメント、カラスのAI認識システム、群制御走行）は市場を問わず、広く応用が可能であり、実現することで茨城県内のスマート農業化への発展と茨城県発祥の「果樹栽培DXソリューション」として全国に展開を行いたい。